



野菜の需給・価格動向レポート(平成24年5月9日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類		4月の価格動向					生育及び価格の5月の見通し
		(参考) 保証基準額の算 定の基となる平 均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平 均販売価額				
			上旬	中旬	下旬		
葉 茎 菜	<div>キャベツ</div>	84.37	130	123	114	・入荷見込量：18,051t (102) ・主産地：千葉(37)、神奈川(34)、茨城(8)	・千葉産は、気温の上昇とともに生育が回復し、順調な出荷になっている。神奈川県産も、気温の上昇とともに生育が進み、出荷の最盛期を迎え、中旬までは順調な出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年をやや下回って推移する見込み。
		86.69	114	108	103	・入荷見込量：4,200t (95) ・主産地：愛知(35)、兵庫(24)、三重(9)、和歌山(9)、大阪(8)、福岡(6)	
	<div>ねぎ (関東：白ねぎ 関西：青ねぎ)</div>	264.1	234	267	248	・入荷見込数量：3,788t (100) ・主産地：茨城(33)、千葉(29)、埼玉(17)、輸入(8)	・茨城産は、冬場の低温と少雨の影響から細もの为中心となり、少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。千葉産も、細め傾向で少なめの出荷となっている。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、今後平年を上回って推移する見込み。
		334.73	307	306	287	・入荷見込数量：240t (95) ・主産地：徳島(34)、大阪(15)、三重(13)、香川(13)、高知(10)、奈良(8)	
	<div>はくさい</div>	67.05	129	74	59	・入荷見込量：5,883t (100) ・主産地：茨城(98)	・茨城産は、生育が回復し潤沢な出荷になっている。今後も潤沢な出荷が続く見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
		77.96	120	93	77	・入荷見込量：2,900t (105) ・主産地：茨城(46)、熊本(22)、岡山(8)、長崎(7)	
	<div>ほうれんそう</div>	376.1	413	422	386	・入荷見込量：1,349t (100) ・主産地：群馬(41)、茨城(17)、埼玉(14)、岩手(11)	・群馬産は、最近の降雨の影響を受け、茎が細め傾向となり、少なめの出荷となっており、今後も平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、順調な生育となっているが、平年よりは少なめの見込み。埼玉産は、ピークを過ぎ、減少傾向。 ・少なめ出荷が見込まれることから、価格は引き続き上回って推移する見込み。
		396.89	446	373	367	・入荷見込量：570t (105) ・主産地：岐阜(65)、福岡(10)、群馬(7)、奈良(6)	
	<div>レタス</div>	156.23	246	187	157	・入荷見込量：7,098t (100) ・主産地：長野(39)、茨城(37)、群馬(13)	・茨城産は、最近の降雨、急激な気温の上昇、雹害等の影響を受け、少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷となる見込み。長野産は、最近の気温の上昇により、生育の遅れを取り戻し、一週間程度の遅れとなっており、中旬には平年並みの出荷となる見込み。群馬産は、少なめの出荷となっている。 ・少なめの出荷が見込まれることから、中旬までは平年を上回って推移する見込み。
		165	256	191	170	・入荷見込量：1,600t (96) ・主産地：長野(43)、兵庫(42)、香川(6)	
	<div>たまねぎ</div>	76.15	110	117	112	・入荷見込量：14,187t (100) ・主産地：佐賀(60)、兵庫(13) 千葉(5)、輸入(3)	・佐賀産は、定植時期の降雨等の影響で、根の活着が悪く、前年の7割程度の少なめの出荷量となっており、今後も前年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、平年並みの出荷となっており、20日前後に出荷のピークを迎える見込み。 ・佐賀産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		76.15	114	128	120	・入荷見込量：3,900t (84) ・主産地：兵庫(45)、佐賀(39)、長崎(9)	
果 菜	<div>きゅうり</div>	253.93	248	222	240	・入荷見込量：7,874t (100) ・主産地：埼玉(35)、群馬(21)、千葉(12)、茨城(12)	・埼玉産は、天候不順の影響で上旬は少なめの出荷となっているが、気温の上昇により中下旬にかけて増加する見込み。群馬産は、天候不順の影響で少なめの出荷となり、今後も平年より少なめの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。
		242.77	243	219	233	・入荷見込量：1,750t (96) ・主産地：宮崎(50)、高知(15)、徳島(13)、愛媛(8)	
	<div>トマト</div>	339.78	506	484	463	・入荷見込量：9,583t (95) ・主産地：熊本(24)、栃木(18)、愛知(12)、千葉(9)、茨城(9)、群馬(6)、埼玉(5)	・栃木産は、気温の上昇等による出荷量の回復が見込まれるものの、最近の降雨や竜巻、冬場の低温等の影響により、平年の出荷量には届かない見込み。熊本産は、4月後半からの天候が良好のため、中旬には出荷のピークを迎え、前年並みの出荷となる見込み。 ・栃木産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		321.78	472	478	474	・入荷見込量：1,750t (90) ・主産地：熊本(47)、福岡(16)、愛知(15)、徳島(7)	
	<div>なす</div>	347.77	382	354	336	・入荷見込量：4,253t (100) ・主産地：高知(45)、福岡(18)、群馬(11) 佐賀(6)	・高知産は、天候の回復により、出荷量は回復傾向にあるが、平年よりやや少なめの出荷となり、今後もやや少なめの出荷の見込み。福岡産は、順調な出荷となり、今後も順調な出荷の見込み。 ・高知産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は平年をやや上回って推移する見込み。
		330.95	365	341	327	・入荷見込量：1,050t (110) ・主産地：高知(27)、大阪(20)、岡山(14)、福岡(14)、熊本(14)、奈良(6)	
	<div>ピーマン</div>	308.36	522	443	451	・入荷見込量：2,502t (100) ・主産地：茨城(77)、高知(10)	・茨城産は、降雪や竜巻の被害はあまり見られず、樹勢も良く順調な出荷となっている。高知産は、平年並みの出荷となり、中下旬がピークの見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに近づく見込み。
		283.1	535	445	424	・入荷見込量：430t (100) ・主産地：宮崎(51)、高知(31)、和歌山(10)	
根 菜	<div>だいこん</div>	86.59	195	137	84	・入荷見込量：9,160t (95) ・主産地：千葉(86)	・千葉産は、生育が回復し順調な出荷となり、中旬までは平年より多めの出荷となる見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
		94.24	156	115	75	・入荷見込量：3,000t (94) ・主産地：長崎(40)、鹿児島(19)、香川(8)、福岡(8)、和歌山(7)	
	<div>にんじん</div>	156.99	168	202	185	・入荷見込量：8,698t (100) ・主産地：徳島(69)、千葉(18)、輸入(4)、埼玉(4)	・徳島産は、遅れていた生育が回復して本格的な出荷となり、5月前半までが出荷のピーク。その後は徐々に出荷量が減少し、5月末で出荷が終了する見込み。千葉産は、平年より出荷開始が遅れ、本格的な出荷は下旬から開始する見込み。 ・徳島産の順調な出荷が見込まれることから、価格は中旬までは平年を下回って推移する見込み。
		148.36	185	206	179	・入荷見込量：2,300t (99) ・主産地：徳島(63)、長崎(27)、宮崎(8)	

種類		4月の価格動向				生育及び価格の5月の見通し	
		(参考) 保証基準額の算 定の基となる平 均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平 均販売価額				
			上旬	中旬	下旬		
い も		—	195	207	206	—	《入荷量が少ないため、見通しは省略》
		—	167	239	270	—	
		131.8	136	147	156	・ 入荷見込量：10,010t (105) ・ 主産地：長崎 (49)、鹿児島 (29)、北海道 (16)	・ 長崎産は、出荷開始が平年より遅れ、中旬から本格的な出荷となる見込み。 鹿児島産は、連休後半から出荷のピークとなり、5月前半まではまとまった出荷が続く見込みで、平年並みの出荷となる見込み。 ・ 順調な出荷が見込まれることから、今後価格は平年並みに推移する見込み。
		131.8	135	146	172	・ 入荷見込量：5,000t (104) ・ 主産地：長崎 (63)、鹿児島 (21)、北海道 (12)、	

- 1) 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)。
2) 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額を下回るもの(消費税は除く。)。
3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4) 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
5) 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、3月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、4,584gで前年比94%、購入金額は、1,851円で同104%となり、購入量は前年をかなり下回り、購入金額は前年をやや上回った。
また、小売物価統計によると、4月のキャベツの小売価格は、282円で過去5か年平均比119%、レタスは、525円で同114%となり、キャベツ、レタスとも過去5か年平均を大きく上回った。

生鮮野菜の購入量及び金額
(1人当たりの購入量、金額)

年	過去5か年平均		平成23年		平成24年			
	購入量 (g)	金額 (円)	購入量 (g)	金額 (円)	購入量 (g)	前年比	金額 (円)	前年比
1月	4,263	1,528	4,310	1,573	4,189	97	1,634	104
2月	4,403	1,552	4,267	1,629	4,499	105	1,735	107
3月	4,815	1,721	4,867	1,788	4,584	94	1,851	104
4月	4,779	1,812	4,796	1,789		0		0
5月	5,109	1,894	5,171	1,820		0		0
6月	5,043	1,872	4,904	1,857		0		0
7月	4,441	1,696	4,362	1,759		0		0
8月	4,348	1,719	4,392	1,717		0		0
9月	4,831	1,804	4,598	1,803		0		0
10月	5,262	1,862	5,037	1,884		0		0
11月	5,016	1,636	5,091	1,613		0		0
12月	5,145	1,834	4,998	1,792		0		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

主要野菜の月別小売価格(東京都都区部)の推移
(単位：円/kg)

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成24年	5か年比 (%)	過去5か年平均	平成24年	5か年比 (%)
1月	166	230	138	547	690	126
2月	177	247	140	508	691	136
3月	188	238	126	461	692	150
4月	238	282	119	462	525	114
5月	172		0	380		0
6月	144		0	350		0
7月	160		0	324		0
8月	156		0	463		0
9月	155		0	562		0
10月	161		0	505		0
11月	162		0	371		0
12月	153		0	453		0

1) 過去5か年は平成19～23年の平均。
2) 平成24年4月の値は、4月中旬の速報値。
資料：総務省「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

3月までの輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は前年比103%の29万トン、加工野菜は同102%の44万トン、野菜全体では同103%の74万トン、うち中国からの輸入は同106%の37万トンとなった。
生鮮野菜及び野菜全体は、前年をやや上回り、加工野菜はわずかに前年を上回った。

野菜の輸入数量の推移

(単位：トン、%)

区分	平成22年		平成23年		平成24年1～3月		平成24年3月	
		前年比		前年比		前年同期比		前年同月比
生鮮野菜	820,687	133	915,091	112	293,155	103	114,189	99
加工野菜	1,677,840	107	1,803,510	107	442,987	102	156,198	103
野菜合計	2,498,527	114	2,718,600	109	736,142	103	270,387	101
うち中国産野菜合計	1,284,449	117	1,409,984	110	369,985	106	137,920	106
中国産シェア	51		52		50		51	

資料：ペジ探（原資料）財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

(単位：トン、%)

品目	輸入先	平成23年3月(A)	平成24年3月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	42,014	35,731	85
	中国	21,625	22,013	102
	米国	11,188	5,030	45
にんじん	合計	13,239	12,250	93
	中国	9,123	8,894	97
	台湾	2,547	1,744	68
ねぎ	合計	5,788	5,118	88
	中国	5,786	5,116	88

資料：農林水産省「植物防疫統計」。平成24年3月は、速報値である。

4 トピック ―主な野菜の輸入状況について―

平成22年の主な野菜の輸入状況を見ると、 ① 輸入数量が比較的多い野菜(ばれいしょ、たまねぎ) ② 輸入数量シェア(国内の需要量(国内生産数量+輸入数量)に対する輸入数量の割合)が比較的大きい野菜(しょうが、にんにく) ③ 輸入数量は多いとは言えず、また、輸入数量シェアも比較的小さい野菜に分けることができる。 このうち、①の野菜については、ばれいしょは、冷凍ものが需要量の1割超、また、たまねぎも、生鮮のものが4分の1程度の輸入であり、輸入数量シェアは大きくないが、需要量が多いことから輸入数量が多くなっている。 また、②の野菜については、そもそも需要量がそれほど多くないことから輸入数量は多いとは言えないが、しょうがは、生鮮のもの他、用途に応じて、紅しょうが用等の塩蔵もの、ガリとなる酢漬調のものや、すりおろし形態のものが併せて6割輸入され、にんにくも、生食用等を中心に生鮮のものが5割輸入され、輸入数量シェアが大きくなっている。 なお、以上の他、トマトは、4分の1程度の輸入があるが、そのほとんどが加工品であり、食生活の洋風化等に伴い増加した需要に対応したものとなっている。 野菜の輸入は、国内生産の状況、為替レート等、様々な要因に影響されるが、増加している加工・業務用需要に国内産地が適切に対応できなければ、鮮度保持技術の向上もあり、③の野菜が①や②の野菜の方向にシフトする可能性がある。	主な野菜の輸入数量と国内需要量に対する輸入数量シェア(平成22年)							
	注) 輸入数量(生鮮野菜を除く形態のもの)は、生鮮換算をせずに実数をそのまま採用している。 資料：資料：ペジ探(原資料) 財務省「貿易統計」農林水産省「野菜生産出荷統計」							

- 問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、三部、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はペジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★野菜の旬ナビゲーション「ペジジャス」 <http://www.alic.go.jp/~suishin/yaiukyu01.000076.html>